

なきごえ



1980

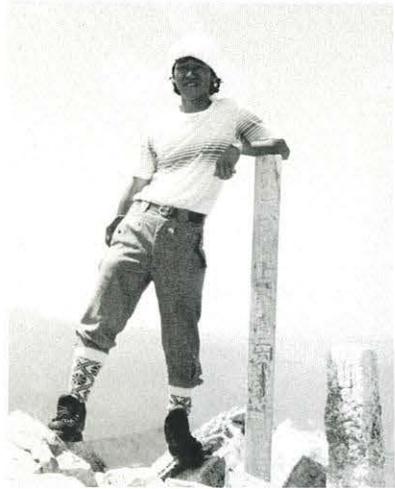
10

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

タカの渡り

上田 恵介



私たちはあちこちの山や岬にテントをはり、夜明けをまつ。肌寒い朝が、陽がのぼるにつれて暖かさをくわえていく頃、地面から上昇気流がおこ

りはじめる。夜をどこですごすのかは知らないが、上昇に都合のよい気流ができると、タカたちはどこからかあらわれてそれにのりはじめる。秋晴れの、ぬけるような空がひろがる朝は、渡るタカの数も多い。

何羽ものタカが、高く、高く、ゆるやかにせま回しながらのぼっていく。サシバが多く、ついでハチクマが多い。時にはノスリやオオタカなどが混じっている。かれらは十分な高度をかせぐと、もう双眼鏡でしか見えなくなっている輪から、1羽また1羽と南へ向かって空をすべっていく。

今年もまた、タカの渡りの調査日が近づいてきた。数年前から近畿周辺の野鳥の会各地支部が連絡をとりあってどんなタカが、どのようなコースで渡っていくのかを調べている。その結果、かれらの渡りの様子が次第に明らかになってきた。たとえば愛知県の伊良湖岬は日本でも有数のタカの集結地として知られている。しかし、ここをとびたつたタカたちが

どこを通過して南下していくのかは長い間知られていなかった。かれらが伊良湖から伊勢湾をわたって鈴鹿山地をこえ、大峰・大台をへて紀泉高原の南端から友ヶ島、淡路島、四国へと渡ることがわかったのは最近の事である。更に四国から九州へ、そして沖縄をへて台湾、フィリピンへとタカたちの渡りは続く。そしてエサの多い南の地でひと冬をすごしたのち、春にまた北上をはじめ。ただ、春の渡りには秋ほどの規模の大きさはない。数羽ずつで三々五々と渡ってくるので、渡りが人の目にふれることは少ない。

紀淡海峡を渡るタカたちについて、ちょっと心配なことがある。それは建設が本決まりになりそうな関西新空港のことである。海峡をこえるタカたちはやがて飛行機が自分たちの渡りのコースをつきつて飛ぶことなど何も知らない。何百年も何千年も前から、かれらの先祖はここを越えていったし、かれらもまたコースを変更することなどゆめにも考えないし、できない。飛行機の進入高度は1100m、離陸高度は2200m、タカの渡りのコースとまともに交錯することになる。サシバにしても、ハチクマにしても、ハトよりもずっと大きい。エンジンにでも吸いこまれれば事故のおきる可能性は非常に高い。

そうすると秋晴れの1日、渡るタカをみてのどかな気分になどひたっておれなくなってしまう。もし、空港が建設されるならば、十分な調査のもとに、タカが安心して渡りをつづけられる、そして飛行機に乗る人間にとっても安全な方策を講じてほしい。

今日もまた空が青く澄んでいる。タカたちは今、渡っているだろうか。

(日本野鳥の会大阪支部・大阪市立大学
理学部動物社会学研究室)

なきごえ10月号もくじ

動物と私	2
“すくすく育つニホンザルの赤ちゃん”	3
動物園グラフ・動物園日記	4-5
東アフリカ紀行 (I)	6-7
レアの繁殖記録	8-9
キーパーズ・アイ ⑮	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“マーラ”

南アメリカに生息する齧歯類の仲間ですが、ウサギによく似ているためよくまちがわれます。細長い足で歩いたり、はねたりする姿は大変愛嬌があります。

(撮影：宮下 実)



“すくすく育つニホンザルの赤ちゃん”

6月20日に生まれたニホンザルの赤ちゃんは母ザルが8日目に死亡したため、その後人工哺育で育ててきました。生後100日目をこえた現在、活発に動きまわり元気一杯です。

(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

「オーストラリアの鳥やけもの」特集

オーストラリアはかなり昔に他の大陸から別れた為、大変面白い動物相を示しています。今月は当園で飼育されているオーストラリアの動物達を特集してみました。

(撮影：長瀬 健二郎)



フライカワセミ

この奇妙な名はヒトの笑い声に似た特異な鳴声に由来しています。



コクチョウ

初めてオーストラリアに来たヨーロッパ人は地球の裏側に来ると白鳥も黒くなるのか、と大変驚いたそうです。(後はヨーロッパのコブハクチョウ)



ヤブツカツクリ

腐葉土で作った塚に卵を産み、その発酵熱で卵をかえす、という大変奇妙な習性を持っています。



ロウバシガン

オーストラリア南岸の島々に住むこのガンはガンのくせにあまり水に入らない陸生の鳥です。



ヒクイドリ

この大きな鳥帽子が何の役に立つかはよく判りません。



オグロワラビー

オグロワラビーは東アフリカに住む中型のカンガルーの仲間です。



アカカンガルー

オーストラリアを代表する動物です。



エミュー

飛べないかわりに走りが専門のこの鳥は時速65kmものスピードで走れると言われています。

8・9月の動物園日記

- 8 / 21. ヤギの子が1頭生まれました。
- 23. アキアカハシリウキュウガモが抱卵を中止したので卵を孵卵機に入れました。
- 24. パーバリーシープが負傷したので縫合手術をしました。
- 26. ボアコンストラクターが1頭死亡しました。
- 28. アカカンガルーの雌が足を化膿させているので手術しました。
- 29. アネハヅルの雄が骨折のショックのため死

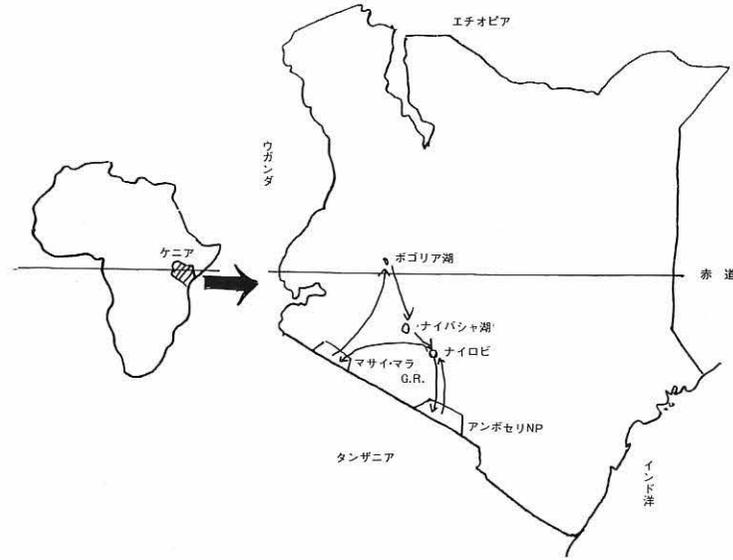
亡しました。オグロワラビーの雌が右の頬部を化膿させているので治療しました。

- 30. アキアカハシリウキュウガモが1羽孵化しました。
 - 9 / 1. カルガモ4羽を日本庭園に放飼しました。
 - 2. 治療を続けていたミーアカットが残念ながら脂肪肝のため死亡しました。メンヨウが2頭生まれました。
 - 7. 自然抱卵していたカンムリヅルが孵化しました。
- ボランティアの9月例会が行われました。

- 9. コブハクチョウ1番とマーラの雌が入園しました。
- 11. キョンが1頭生まれました。
- 12. トラの子が2頭生まれました。
- 13. ハクビシンが2頭生まれましたが死産でした。
- 14. 検疫が終了したので、先日入園したコブハクチョウを日本庭園に放飼しました。ニホンザルの雌が打撲傷のため死亡しました。
- 15. イエローアナコンダが化膿症のため死亡しました。

- 16. ニホンジカの角切りを行いました。今年生まれのベニジュケイの雛を展示しました。
- 17. 7日に孵化したカンムリヅルの雛が、コクシウム症のため死亡してしまいました。
- 20. 動物愛護週間にちなみ、7日間の予定で園内で動物相談が始まりました。
- 21. ビューマの子供が大腿骨を骨折したので手術しました。

東アフリカ紀行 (I)



§はじめに

今年の8月に東アフリカのケニアへ野生の動物たちを見に行きました。アフリカといえば非常に暑いところと思われる方も多いでしょうが、赤道直下の国とはいえ高原の国であるため、冷夏であった今年の日本よりまだ涼しく、首都ナイロビの8月の平均気温は16℃です。また乾期であるため湿度も低く、非常に過ごしやすいところです。私にとっては2回目のケニアへの旅でしたが、8日間で5つの国立公園及び保護区を訪ねましたのでその印象を数回にわたってお話したいと思います。

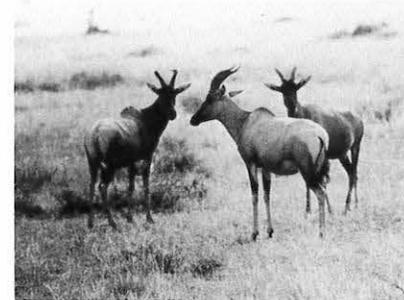
§ナイロビへの道

8月7日の午後3時成田空港を出発し、途中ホンコン、バンコック、デリーを経てインドのボンベイに着きました。空港内で7時間30分もナイロビ行きの飛行機を待たなければなりません。8日の午前11時30分にボンベイを出発し、アデン、アジスアベバを経て午後5時30分にナイロビ空港に到着しました。日本とケニアの時差は6時間ですので、なんと成田を出発して1日と8時間30分かかったわけ。入国手続をすませたあと小型バスでナイロビ市内へ向かいました。道路を境にして空港の反対側はナイロビ国立公園なのですが、道路沿いにフェンスがはられており、文明の波が動物王国にも押し寄せているのを感じました。それでも道路わきの小さな池に2羽のホオジロカンムリヅルを見つけて一安心しました。その夜はナイロビ市内のインターコンチネンタルホテルで、明日からのサファリに胸をときめかせてベッドにつきました。

§マサイ・マラ保護区

翌9日は午前8時にナイロビを出発した。サファリには8人乗りの小型バスのサファリカーに乗り出

かけます。車の屋根はサンルーフになっており、動物を観察できるようになっています。ナイロビから一旦北へ向かい、有名な地球の割れ目リフトバレーを横断し、南東へ一路マサイ・マラ保護区へ向いました。リフトバレーでは、コクスハーテビーストやトムソンガゼルなどのガゼル類の小さな群を見ることができました。アフリカへ着いて初めての動物たちに同乗の人たちも興奮することしきりで、車を止めて写真を撮りたいのですが、ドライバーは先を急ぐためなかなか車を止めてくれません。



あこがれのマラ保護区のトピの群れ

からは悪路の連続で午後1時30分にやっと、あこがれのマサイ・マラ保護区の東端のゲートを通りました。この保護区は地球上で最大の動物の移動で有名なセレンゲティ国立公園と国境を接しており、今回のサファリで最も楽しみにしていた場所でした。面積は1800km²で、1961年に設立され、ケニアで最も動物の数が多き保護区であると聞いていたのでとても楽しみにしていたところ。ゲートを入ると、さっそくマサイキリンやグラントシマウマなどの群を見ることができました。

2時30分にやっとマラ・セレナロッジに到着し、遅くなった昼食を取りました。ロッジはマサイ・マ

ラ保護区の東部にあり、河岸林に近いのでアフリカサンコウチョウやハジロハクセキレイなどの小鳥類も豊富にいました。またお客さんから餌をもらうのかロックハイラックスも人を恐れず近寄ってきました。

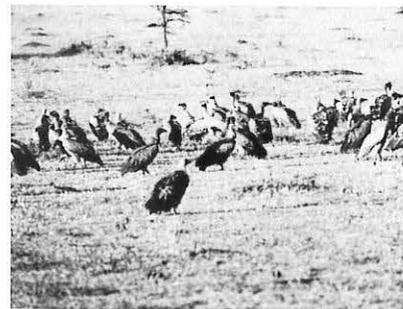
食事もそこそこの午後のサファリに出かけました。さすが動物の数が多くて有名だけあって、大きく広がった平原に多数のレイヨウ類が草をはんでいました。初めて見るトピの群に感激し、カメラのシャッターを押し続けていました。他のレイヨウ類は、トムソンガゼルやグラントガゼル、オグロヌーなどが見られました。特にオグロヌーが1番多いようでした。タンザニア国境に近いヒポポテリ(カバが住んでいる池)では、車から降りることができ、小さな池に数頭のカバが水中から顔を出していました。

草食獣に比べると肉食獣を見る機会は少ないわけですが、それでもライオンを2回見ることができました。それもゴロゴロ寝ていることが多いのですが、2度目に見たベアーは交尾のシーンを見せてくれました。初め横になっていたライオン夫婦に我々が近づくと立ち上がり、雌が雄を追いかけつづき、遂に交尾をしま



地球上で最大の群を作るオグロヌー

また、ハゲワシが群がっているのので近づいてみるとオグロヌーの死体にズキンハゲワシなど数種のハゲワシが数十羽も群がっていました。腹の中に頭



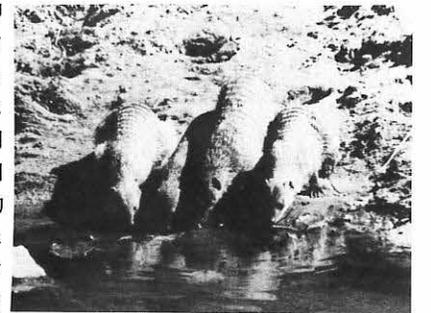
を突き込み頭を真赤にして腸を引き出して食べていました。野生の世界の一面を見たような気がしました。翌10日は、6時に起床し早朝サファリに出かけました。眠たさに目をこすりながらサファリカーに乗り込んだのですが、大きな背骨をくわえて走るセグロジャッカルや、真近に見るブチハイエナの姿に眠けもふっ飛んでしま

した。8時30分にはロッジへもどったのですが、ロッジの近くまでもどってきた所で親子づれのマサイキリンに出会いました。このマサイ・マラ保護区はオグロヌーやトピなどのレイヨウ類の数は多いようですが、大きな樹木があまりないためかキリンやゾウなどの大型の草食獣はあまり見かけませんでした。

朝食後、次の宿泊地へ移動をしました。その間オグロヌーやトピなどの大きな群を何度となく見かけました。休憩のため立寄ったキーコクロロッジの近くで、どうしたかたつた1頭でいるゾウを見ました。普通ゾウは群でいることが多いのですが、全くふしぎでまわりをサファリカーが取り囲んでしま

目的のフィグツリーキャンプへは、同じ保護区内にありながら3時間半もかかりました。このキャンプはテントキャンプでした。テントといっても大きなテントで中にちゃんとベッドが入っており、シャワーとトイレもついています。ところが予約の手違いからか、充分な部屋数が得られず2人用のテントにベッドを持ち込んで4人で使うことになりました。なにしろこんな大きな保護区にも宿泊施設は限られており、日本のように国立公園内に旅館が乱立しているようなことはありません。動物保護が優先されていて、ロッジなどの建設許可は簡単にはおりないようです。

このキャンプは小川沿いにあり、動物たちが水をもとめてたくさんやってきました。中でも4頭のシママンギースが川岸にやってきて仲良く水を飲んで



水を飲みに来たシママンギース

いました。川沿の木には何種類ものハタオリドリが巣が下っていました。午後のサファリではあまり変わった動物を見ることはできませんでしたが、その夜はテントの中でオグロヌーなどの声を近くに聞きながら、アフリカに来たという実感にひたって眠りに

つきました。(飼育課、獣医師：榊原安昭)

レアの繁殖記録

レアはダチョウ等と同様とぶことができず俗に走鳥とよばれる一種ですが、ダチョウに比べると動物園での飼育歴もそんなに古くはない様です。繁殖の成功も昭和50年の上野動物園でのが日本では最初です。当園では昭和43年、現在の走鳥舎が完成した時に入園しています。その間2度産卵しているのですが繁殖には至っていませんでした。レアの雌雄の鑑別もむつかしかった様で、雌だけ2羽飼育されていました。そこで昭和52年に雄を交換で入れて繁殖を計ることにしました。しかしながらその当時入園した雄の個体はまだ若かったのでしょうか、どうみても他園でみてきた雄に比べても雄らしくなく、ますます自信がもてない状態でした。しかし翌年昭和53年の8月に結果的には無精卵でしたが3個の産卵をみました。やはり雄をいれたことが刺激になったものと思われま



レア舎全景

昭和54年には新年早々他園で見た雄と同様、首の羽毛を逆立る初期のディスプレイが始まり、やはり雄である確認がもてました。以後ディスプレイも常

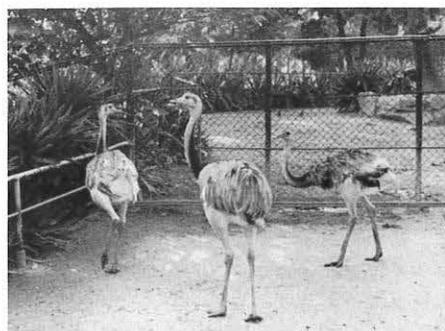
昭和54年 産卵ふ化記録

月日	卵重	長径	短径	結果
5.30	616g	13.94cm	8.83cm	無精
6.6	600	13.71	8.75	"
6.11	594	13.10	8.98	有精死ごもり
6.13	605	13.28	9.00	中止
6.19	628	13.46	9.10	無精
6.29	635	13.15	9.24	43日目死ごもり
7.8	610	12.66	9.25	42日目8/19介助フ化
7.11	635	13.30	9.20	41日目フ化事故死

(表1)

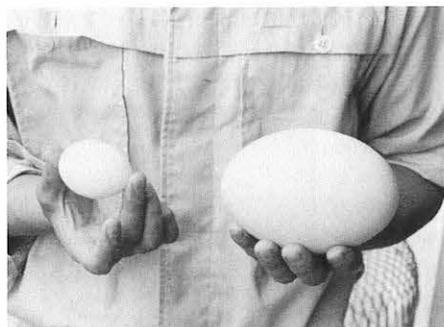
時みられる様になり係員に対しても攻撃的になってきました。その年の最初の産卵は表1に記す様に5月30日ですが、交尾の様なものを確認したのは6月の初め頃です。以後雌の腰部の羽根の抜けが目立ってきて交尾が行われていたものと思われま

卵はすべてフ卵器にかけましたが、その中で結果を少しくわしく記してみますと、有精卵はフ化予定2~3日前になると平らな所においてみるとよく動



繁殖ペアと最初のヒナ

自力フ化の希望を43日目にもったのですが43日目にフ化せず死ごもりしていました。(他園のフ化日数のデータ39~43日を参考) 7月8日産卵の分は前回の残念な結果から、42日目に少し卵を割ってやりフ化に成功しました。続いて7月11日は予想していた日数よりも早く自力フ化してしまい、フ卵器作動中事故死してしまいました。



レアの卵 (左:ニワトリの卵)

こんなわけで昭和54年度は沢山産卵したにもかかわらず、又、鳴き声もきかれます。6月29日産卵の分は42日目まではよく動いて、

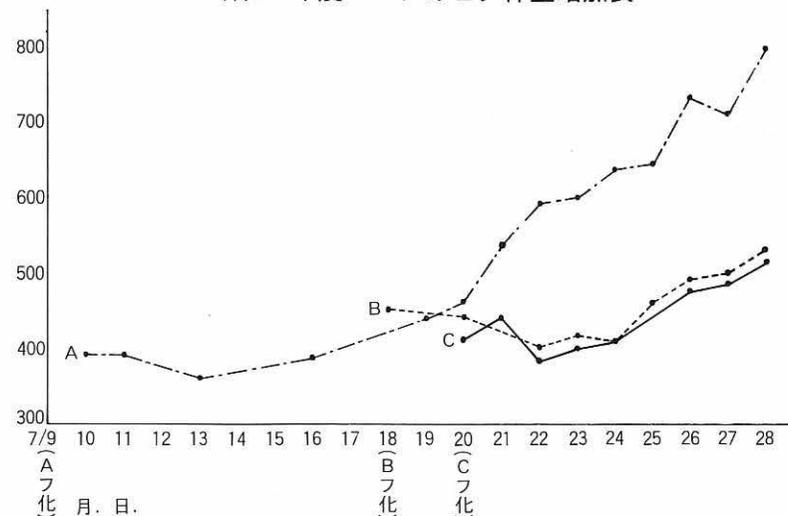
昭和55年 産卵ふ化記録

月日	卵重	長径	短径	結果
5.28	590g	13.06cm	8.98cm	無精
30	577	12.80	8.95	フ化7/9成育
6.1	580	12.70	8.99	無精
2	595	13.23	8.99	"
7	625	13.44	9.10	フ化7/18成育
10	620	13.12	9.15	フ化7/20 8/15死
17	破卵			無精
26	破卵			"
7.30	620	133.75	91.10	"
3	600	129.70	92.30	"
5	620	133.0	92.70	フ化8/14 40日、8/21死
8	630	130.8	94.3	後期中止
10	595	129.0	91.65	無精
24	590	129.6	91.30	9/2フ化9/17死
26	540	124.55	97.755	9/3 " 9/13死
29	不明	不明	不明	9/4 " 9/11死

(表2)

表3

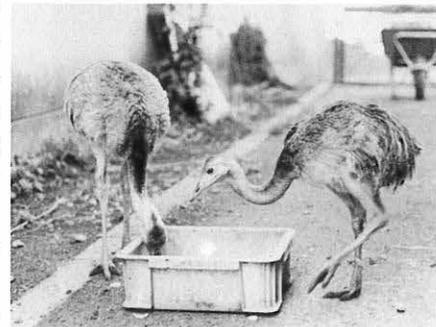
昭和55年度 レアのヒナ体重増加表



らずたった1羽成育したにすぎません。

翌昭和55年度の産卵及びフ化育すうについて記してみますと、雄におけるディスプレイは昭和54年12月よりすでに始まり、昨年以上の期待をもちました。繁殖シーズンに入ると係員に対しての雄の攻撃はよりはげしくなり、又、今年は雄がシキワラを巣の様にすわる時たびたびみられ、自然抱卵もするのではないかと考えられました。

今年の産卵状況は表2の通りですが、その内フ化した個体Aの育すうについて記してみますと、Aはフ化2~3日前から活発で鳴き声もよくきかれました。フ化の状態も卵のはしあげが始まってわずか30分程で完全にフ化しました。フ化直後はまだ脚も弱々しくほとんどすわっている状態でした。3日目位になると少しずつ脚もしっかりしてきました。餌つけは昨年の経験からフ化翌日から一応少しずつやってみることにし、動く物に興味をもつものでピンセットで細く切った青菜やおきあみなどを少し動かしながら口バシの所にもっていきます。一応くわえてみるので



レアのヒナ

みこむまでにはまだ至りません。2日令になり卵黄をよくた

べる様になり、以後青菜、さなぎ等をたべ4日令になるとパンもたべる様になりました。さらに大きくなるにつれどじょう、おきあみ、りんご等もよくたべ、現在では親鳥と同じペレットもたべる様になっています。個体BもA同様順調な成育がみられました。個体CはA、Bと同様な成育をみたのですが、突然フ化後27日目に元気がなくなり、いろいろな治療がなされたのですが8月15日死亡してしまいました。解剖の結果、胃の中に10cm位のかれ枝のみこんでいてそれが胃にささっていたためです。なんでも口に入れのみこむので、運動させる時は細かい注意の必要性をつくづく感じました。それから後半にフ化した3羽の個体はいずれも体が弱しく又、脚が開いていたり足指が曲っていたりして治療もほどこされたのですが、いずれも死亡してしまいました。キジの様に沢山卵を産む鳥などにおいてもおそい時期の卵についてはやはりこれと同様なことがおこりやすいそうで、原因はいろいろ考えられますが今後の研究課題と思われま

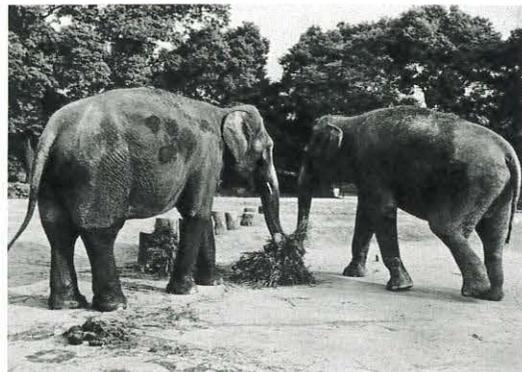
この様なわけで大きな期待にもかかわらず2羽の成育に成功したにすぎず、来シーズンは今年の反省をふまえてさらに努力してみたいと思います。又今年は後期入って雄が抱卵したのですが、あんなに攻撃的だったのに抱卵に入ると反対に逃げるようになりました。

今年は抱卵場所の環境が悪かったのか、自然フ化を試みましたが、うまくいきませんでした。これも来シーズンは抱卵場所の工夫をすることにより、自然フ化への試みをしてみたいと思います。

(飼育課:大野尊信)

キーパーズ・アイ Keepers' Eye ⑬

★ ゾウの鼻



ゾウの鼻は、とても器用に動きます。人間の手の役目をしています。又、ゾウの鼻はとても力持ちで、何百キロもある大きな木も軽々と持ち上げ、運んだりします。水を飲む時も鼻で水を吸い、鼻先を口にもっていき水を飲みます。鼻先はすごく敏感で、好きなエサかきらいなエサか、食べられるエサか食べられないエサかを、鼻先で感じとります。鼻は、シャワーにもなります。バケツ2～3杯の水を吸い

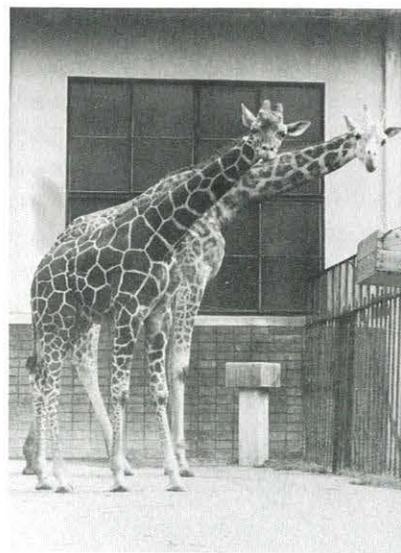
上げ、それを体にかけるのです。背中についたフラクズ等は、プーッと、吹き飛ばします。鼻先はとても小さなものをつまむことができます。ピーナツ位なら、かんたんにつまみます。小さなものがたくさんある場合は、鼻でキレイに寄せ集め、ゴミとか砂があれば吹きとばし、鼻でうまくすくい取って食べます。

もう1つ、とても上手に食べるエサがあります。それはワラを食べる時です。まず、足でワラをおさえ、鼻で適当な束をつかみ、足でパタパタとはたき、口先でワラをしごき、ゴミを取り、こんどはブルンブルンとふり、キレイになったところで口の中に入れ食べます。キバのある象はワラをしごき時、キバを利用し、キバの間にワラをはさみ、しごきます。キバも、うまい具合に利用方法があるのだなあと感心させられます。

ゾウは、かしい動物ですので、鼻も人間の手に上の利用をしています。(飼育課：野口秀高)

★ 新入りのキリン

4月21日、1才半のメスキリンが岬公園自然動物園から入園しました。まだ名前がついていなかったのので、岬公園にちなんで、サキコと命名しました。初めて車に乗り、全然知らない所に来たため、サキコはそわそわと、寢室の中を右往左往していました。となりの部屋には当園にもとか居るタカオとリツコがいます。サキコにとって、初めてのご対面です。タカオとは、年齢もはなれているせいか、サキコは近づこうとはしません。タカオも新人のサキコに対し、この見なれないメスキリンとこれからいっしょに住むのか?という感じで、少しはなれて見えています。でもリツコは、積極的にサキコに近づき、「ねえ、君、これからいっしょに仲良く住もうネ」と、いっている様です。サキコもリツコには「はじめまして、わたしサキコよ、仲よくしてね」というように、そばに寄りそっていました。運動場でエサを食べる時もタカオは1人で食べていますが、リツコとサキコは、いっしょに姉妹のように仲よく食べてい



サキコ(手前)とリツコ

ます。リツコが姉さんぶってサキコの面倒をみているところは、そばで見ているとほほえましいものです。運動場でもタカオがサキコに近づいて行くと、リツコはサキコのそばに寄りついて、「だいじょうぶヨ」と、ささやいている様です。サキコもタカオに対しだんだん慣れて来て、今では3頭仲良く暮らしています。(飼育課：野口秀高)

動物園ニュース

§ 誕生動物

9月2日にヒツジが2頭生まれました。2頭ともメスでとても元気な赤ん坊です。そして生後8日目の9月10日断尾リングを着けました。これは内径が5mmの丈夫なゴム輪でこれを尾に着けることにより、尾はきつくしばられた状態となります。そしてリングをはめられた部分から下は壊死し脱落するというわけです。とても痛いようで着けてから24時間は赤ん坊はミルクも飲めないようですが、その時間を過ぎると平気になります。ヒツジは毎年6月1日に毛を刈りますが、このように断尾していないとこの時毛と一緒に尻尾も切ってしまうことがよくありますし、それにヒツジの長い尻尾は便で汚れやすく断尾していないととても不潔になります。このような理由で断尾をするのですが、尾はリングを着けてから2～4週間で脱落します。



シカが仲間に肛門をなめとられて入院したことはすでにお知らせしましたが、1ヶ月にわたる入院生活の結果全快し、9月8日、南園のシカ舎に退院しました。入院して来た時は肛門はおろかその周囲の組織もそっくりえぐり取られていたので、うまく回復するかとても疑問だったのですが、担当の飼育係と獣医師の熱心な治療の結果全快しました。まだ仲間達とは分けていますが、もう少し大きくなったら同居できることと思います。

9月16

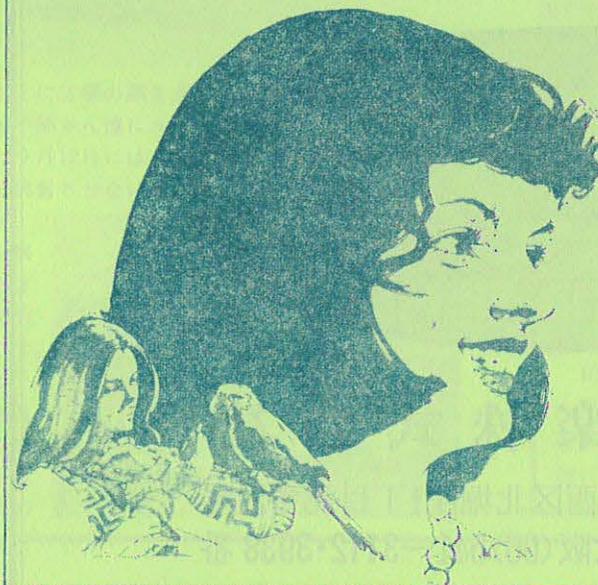
日には2頭のオスジカの角切を行いました。メスを傷つけたりするのを防ぐ為ですが、去年は10月4日に実施したのに比べ、今年は約3週間も繰りあがりました。やはり冷夏のせいでしょうか。

§ 新キジ舎完成

新動物病院建設の為取壊された旧キジ舎に代って、9月16日新キジ舎が完成しました。新キジ舎は



くらしを彩るショッピング



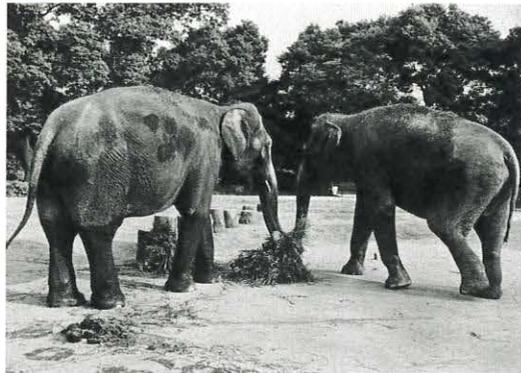
近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111 ・ 上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・ 近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

★ ゾウの鼻



ゾウの鼻は、とても器用に動きます。人間の手の役目をしています。又、ゾウの鼻はとても力持ちで、何百キロもある大きな木も軽々と持ち上げ、運んだりします。水を飲む時も鼻で水を吸い、鼻先を口にもっていき水を飲みます。鼻先はすごく敏感で、好きなエサかきらいなエサか、食べられるエサか食べられないエサかを、鼻先で感じとります。鼻は、シャワーにもなります。バケツ2～3杯の水を吸い

上げ、それを体にかけるのです。背中についたワラズ等は、プーッと、吹き飛ばします。鼻先はとても小さなものをつまむことができます。ピーナツ位なら、かんたんにつまみます。小さなものがたくさんある場合は、鼻でキレイに寄せ集め、ゴミとか砂があれば吹きとばし、鼻でうまくすくい取って食べます。

もう1つ、とても上手に食べるエサがあります。それはワラを食べる時です。まず、足でワラをおさえ、鼻で適当な束をつかみ、足でパタパタとはたき、口先でワラをしごき、ゴミを取り、こんどはブルンブルンとふり、キレイになったところで口の中に入れ食べます。キバのある象はワラをしごく時、キバを利用し、キバの間にワラをはさみ、しごきます。キバも、うまい具合に利用方法があるのだなあと感心させられます。

ゾウは、かしい動物ですので、鼻も人間の手以上の利用をしています。(飼育課：野口秀高)

動物園ニュース

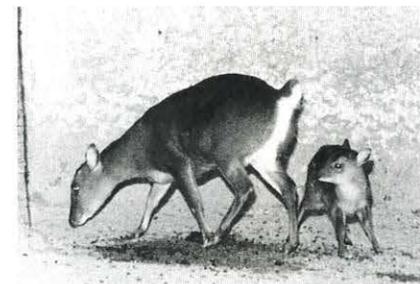
§ 誕生動物

9月2日にヒツジが2頭生まれました。2頭ともメスでとても元気な赤ん坊です。そして生後8日目の9月10日断尾リングを着けました。これは内径が5mmの丈夫なゴム輪でこれを尾に着けることにより、



尾はきつくしぼられた状態となります。そしてリングをはめられた部分から下は壊れ脱落するというわけです。とても痛いようで着けてから24時間は赤ん坊はミルクも飲めないようですが、その時間を過ぎると平気になります。ヒツジは毎年6月1日に毛を刈りますが、このように断尾していないとこの時毛と一緒に尻尾も切ってしまうことがよくありますし、それにヒツジの長い尻尾は便で汚れやすく断尾していないととても不潔になります。このような理由で断尾をするのですが、尾はリングを着けてから2～4週間で脱落します。

9月11日にはキョンにオスの赤ん坊が生まれました。母親はもう6産目で大変うまく育てています。



しかし、この子の父親は長男との闘争で4月17日にすでに死亡していますので、かわいそ

うなことに父親の顔を見ることはできません。でも兄さんや姉さん達にかこまれて幸せそうです。

また9月12日にはトラの仔が2頭生まれました。母親を興奮させない為、性別の確認はまだしていませんが、

声から察すると2頭共元気そうです。

§ シカ

2頭
5月27日に生れたメスの



シカが仲間に肛門をなめとられて入院したことはすでにお知らせしましたが、1ヶ月にわたる入院生活の結果全快し、9月8日、南園のシカ舎に退院しました。入院して来た時は肛門はおろかその周囲の組織もそっくりえぐり取られていたので、うまく回復するかとても疑問だったのですが、担当の飼育係と獣医師の熱心な治療の結果全快しました。まだ仲間達とは分けていますが、もう少し大きくなったら同居できることと思います。

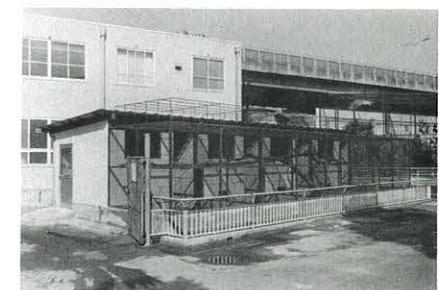
9月16

日には2頭のオスジカの角切を行いました。メスを傷つけたりするのを防ぐ為ですが、昨年は10月4日に実施したのに比べ、今年は約3週間も繰りあがりました。やはり冷夏のせいでしょうか。



§ 新キジ舎完成

新動物病院建設の為取壊された旧キジ舎に代って、9月18日新キジ舎が完成しました。新キジ舎は旧のものと同じく4室で、ワシミミズク、フクロウ、チャムネシャクケイなどを展示する予定です。これ



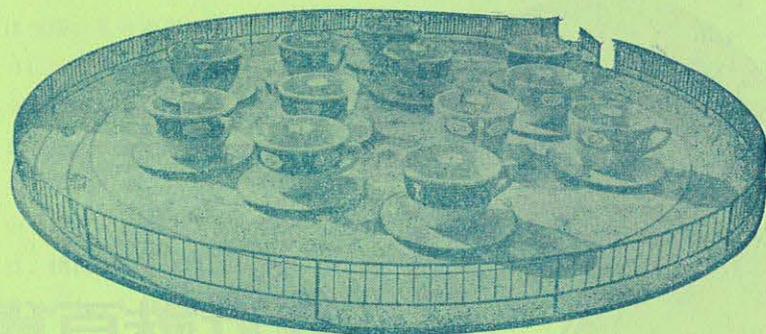
らの工事の為、お客様にはずい分御不便をおかけしましたが、人止めの為のヘイもはずされ、久し振りで小鳥の家も見ただけになりました。

休園日のお知らせ

毎月第3月曜日は休園日です。来年1月までの休園日は下記の通りです。

10月20日(月)、11月17日(月)、12月15日(月)、
年末年始は12月29日～1月1日まで休園いたします。開園時間は9時半から5時までで、4時に切符売止めになります。

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹 娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

なきごえ 昭和55年10月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

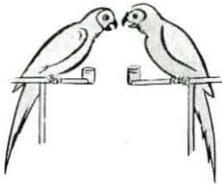
第16巻第10号(通巻182号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

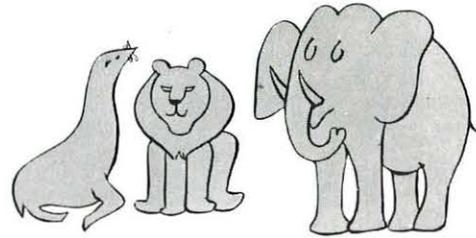
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地

電話(078)221-8195・221-1517

電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・中川 哲男・大野 尊信・神原 安昭・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・苅谷 文彦・仲谷 登